

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600692		
法人名	株式会社 しらかば		
事業所名	グループホームすずらん(あい)		
所在地	北海道帯広市東11条南5丁目1番地26		
自己評価作成日	令和 5年 10月 3日	評価結果市町村受理日	令和 6年 1月 15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600692-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600692-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年11月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①畑までの通路を整備し、車椅子の方も散策できるようになったため、畑作業や散歩などの機会を通じて、地域の方々との交流を深めていけるように取り組んでいます。
- ②リハビリを兼ねた創作活動を通じて、やりがいや喜びを感じていただけるような発表の場を提供しています。
- ③一人ひとりのペースや残存機能を見極め、日常生活に活かせるような個別な働きかけを行っています。
- ④看護師を配置し、健康チェックや疾病の早期対応や感染予防に努めています。
- ⑤ホームの畑で野菜や花を作り、収穫した野菜で漬物を作り食べて頂いたり、庭の花を自由に摘んで仏壇に飾るなど楽しんでいただいている。
- ⑥笑顔を大切に一緒に笑って、一緒に悩んで支え合えるようなアットホームな雰囲気大切にしています。
- ⑦感染対策に配慮した中で季節を感じていただくための外出の機会や、ホーム内での楽しい行事を提供しています。
- ⑧やりがいをもって取り組んでもらえるような運動に繋がる取り組みを実施しています。

当事業所は、国道38号線沿いで交通の便が良い閑静な住宅街にある。鉄筋コンクリート2階建て2ユニットのグループホームで、近くには高校や小学校がある。母体法人は調剤薬局を主に介護付き有料老人ホームやサ高住、グループホームなど多くの福祉施設を運営している。運営推進会議には社長や法人介護部長も参加するなど、グループの従業員や地域住民にも顔の見える連携が図られている。令和4年4月からはインドネシアからの技能実習生を迎え入れ介護や日本語を習得し人材育成をしている。近年はコロナ感染予防のため外出の機会が減ったので、事業所の敷地内を整地し車椅子でも畑や花壇へ散策ができるように工夫をした事で日常的に外気浴を楽しめるようになり、地域住民とも交流の場となり利用者の生活意欲の活性化に繋がっている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念を基にユニットの年間目標を設定し、ケア会議等で周知して実践につなげている。	法人の理念をユニット毎に掲示し、唱和してケア会議時に共有している。事業所の理念は「その日の体調を把握してその日のできることを支援します」と決め、個別性を持って実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策のため町内会の行事は開催されていないが、畑の作業や散歩を通じて顔なじみの関係を継続している。	町内会に加入しているが町内会行事は5類移行後も再開していない。近隣の保育所の総練習を見学するなどコロナ前の行事参加を心待ちにしている。散歩時の挨拶などは日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進員や近所の方を通じて、自立支援や一人一人の尊厳を大切にしていることの理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より集合開催を再開し、各委員会の報告や虐待防止、事故対策、感染対策の取り組みについて感想やアドバイスをいただいてサービスの向上に努めている。また、毎月発行しているお便りも配布して普段の利用者様の様子や職員やご家族のかかわりを知っていただきご意見を頂いている。	集合での会議を開催している。町内会長や地域サロン代表、家族代表、地域包括支援センター職員が参加して通信や報告事項など活動内容の紹介と情報交換をしている。身体拘束防止委員会の取り組み報告について、意見交換し実情を共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて情報交換を行っている。事例の報告や相談などを行いご指導を頂いている。また、内部研修の講師なども行っていただいている。	行政とは介護保険更新時や生活保護担当者との連絡や相談等、連携を図っている。成年後見の内部研修等の講師依頼をし協力を得ている。重大事故報告はタイムリーにメールなどで行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修に参加し、施設内委員会や全体ミーティングで全職員で把握できるよう周知している。また、目標の設定と評価を行い、チェックリストを活用し、自身だけでなく他の職員を含めて不適切なケアに気付けるような環境を作って改善に努めている。	法人の身体拘束委員会は年4回、身体拘束適正化委員会は毎月行っている。人感センサーの利用についてモニタリングを行い必要性や時間帯の工夫など検討している。不適切ケアについてはチェックリストで振り返り、日々の小さなエピソードも評価することでケアの質を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会の開催やチェックリストの実施により、意識向上に繋がっている。また、気になった不適切なケアについては管理者に報告し、状況確認を行った上で直接確認して、虐待防止に努めている。		

グループホームすずらん(あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部や外部の研修で制度について学習し、利用者様の事例を含めて全体ミーティングにて全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族及びご本人にも、理解して頂けるまで何度も説明し理解に繋がるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にお話を伺ったり、定期的に電話にて近況報告を行い、意見箱も設置している。運営推進会議でご家族から頂いた意見や要望を参考にして計画を変更したりできる限り対応している。また、苦情等解決委員会を設置し、反映させるように努めている。	定期的に事業所通信を家族に送付し、事業所内の様子を伝えている。面会時には最近の状況を伝えている。家族には気軽に意見や要望を言えるような雰囲気作りを努めている。	面会時に家族からの意見や要望を聞く機会を多く持っている。利用者へ届いた郵送物等を遅延なく家族に手渡すなど、家族アンケートからの要望を反映させる仕組み作りを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやケア会議で、問題点など意見を出し合いながら改善に繋がるよう職員全員で意見交換を行っている。内容によって本部にも上申し反映させている。	ユニット会議やケア会議などの定期的な会議で職員からの意見や要望、アイデアなど情報交換し業務改善に繋げている。個別面談も年に1度あり、接遇や悩み事などを把握し働きやすい環境作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に明記し、職場環境の改善のため職員間で話し合いを行い働きやすい環境作りに留意し、各自がやりがいをもって働けるよう工夫や業務改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修も含めて外部研修や内部研修に参加する機会を提供し、知識の向上に努めている。また、個別に合ったケア方法を話し合い、難しいケアの対応等職員で確認し合ってチームケアを実践している。中途採用者にも介助方法などを演習しながら進めている。定期的にOJTの個別面談を実施しながら目標をもって取り組めるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や協会、対人援助の研究会等を通じて、他施設との情報交換や勉強会を行っている。		

グループホームすずらん(あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は不安も多く思いを告げられないこともあるため本人の言動や行動から把握し、不安にならないようゆっくり慣れていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況やニーズ、ご家族の想いを把握し、環境の変化による様子を随時報告し、意向に沿った支援ができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のできることで、出来ない事を確認しながらその方のペースに合わせて支援している。本人の理解のもと、無理強いはにならないように楽しみながら取り組んでもらえるような環境を整えて手伝いや運動を行い体調の維持に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向に合わせて能力を活かせるよう手伝い等を協力しながら行い、居室にこもりがちな方やコミュニケーションをとりづらい方にも工夫しながら利用者様同士の交流の機会や共に相談できるような関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りを毎月発行し、普段の様子や行事の様子を報告している。また、定期的に電話などで近況報告を行っている。また、感染対策に配慮した中で面会できる環境を整えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方の面会制限は継続しているため、ご家族を通じて大切な方には様子を報告してもらったり、電話の対応は行い、関係性が途切れないように努めている。	家族以外の面会制限は継続しているため知人や遠い親戚などには電話などをする事で関係性が途切れないよう支援している。墓参りや法事への参加は感染対策を強化して個別に対応している。	法人で決められている面会制限の在り方を検討し馴染みの人や場所への関係性を継続していく機会を作っていけるよう支援することを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と近くの席で会話できるよう食事の席などにも配慮している。また、職員が間に入りながらコミュニケーションが取りやすいよう環境整備に努め、レクリエーションや談話、創作活動などを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から相談を受けたり連絡を取り合いその後の支援に努めているため、何かあれば電話してくれたり来所してくれるご家族もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や日々の会話の中から思いをくみ取り対応できるよう努め、ニーズを把握し、その方らしい生活ができるよう支援している。	入居時に元の施設や病院、家族から生活歴などを聞き取りアセスメントを行っている。好きな事ややりたいことを本人が表現し実現できるよう個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの馴染みの暮らしや生活歴を把握し、日々のコミュニケーションを深めて本人の思いに沿えるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやケア会議など全員で状況を確認し、業務日誌、体調管理表などで身体の状況を把握できるよう努め、生活支援に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の思いも尊重した上で、日々の変化を見逃さないよう毎日の申し送りやケア会議の中で課題に取り組み支援に繋げている。	半年ごとに見直しを行っている。ケア会議で担当職員や看護師からモニタリングの結果報告を受け、課題やケア内容を検討し作成している。ケアプランは家族に説明し送付している。ケア会議で共有し統一したケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化や対応した様子などを介護記録に記載し、職員間で情報を共有しながら対応の仕方を検討して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じご家族とも連絡を取りながら主治医、協力病院と連携を取っている。本人やご家族の意向に沿えるよう取り組みの提案を行い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方等の支援を受けて親睦を深めて顔なじみの関係を続けてきているが、感染対策で交流が難しい状況が続いているため、交流が再開できるような環境を整えて継続させていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連絡を取りながら、協力病院も含め電話での相談や本人の意思も確認しながらご家族にも協力を得て往診や受診等を行っている。	かかりつけ医の受診は家族に協力してもらう場合もある。協力医からは月に2回の診察、必要時に検査などもあり適切な医療を受けている。服薬は一包化されて事業所へ届き看護師が個別にセットしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定を行い、体調不良や本人の訴えも傾聴して気付きも含めて報告、相談している。必要に応じて再検も行い定期的な体調確認も行っている。また、夜間救急などの対応や血中酸素も測定し日常の健康管理に努めている。		

グループホームすずらん(あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Drや看護師と情報交換し、面会や電話等で経過を報告しあいながら退院に向けて話し合い、一時退院等も行い受け入れ体制を整えて早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	細かな連絡をご家族と取り合い、Drと話し合う中で重度化が想定されるケースは家族の想いを大切に納め得る対応を何度も検討し、チームで取り組んでいる。	重度化の指針は入居時に家族に説明し対応の理解を得ている。重度化の際は医師と家族、看護師や職員で今後の方針を検討する中で看取りとなるケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、事故対策委員会を中心にホーム内でも勉強会を行っている。消防署が主催する普通救命講習を定期的に受講できるように計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に近隣の方と互いに二次避難場所として利用できるよう連携をとっている。避難訓練では夜間を想定しての訓練も実施し、各ユニットで避難の優先順位や最低限必要な対応を確認している。また、水害や地震を想定したマニュアルも整備し、訓練を実施してシミュレーションしている。	年に2回、避難訓練を実施している。最近では水害を想定して法人内の施設へ避難する訓練を行っている。非常用電源を設置したことで備蓄の準備状況も変更している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いや意向を受け入れて、不安を軽減させながら、出来なくなってきている事については声かけしながら一緒に行う中でできることを確認し、残存機能を活かしてもらえよう支援している。	利用者の出来る事を活かしながら、創作品が出来た時には行政主催のアルツハイマーデーの作品展示に出品し地域住民に見てもらう機会を設けている。得意な事や好きな事を個性を重視して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意向を受け止め、意思がうまく伝えられない方にはいくつか選択肢を提示しその中から選択していただく等、自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんで楽しめるよう外気浴や運動、ゲーム等の機会を提供している。無理強いせず、それぞれのペースで前向きに取り組めるよう支援している。買い物や畑を整備することにより花の水やりなど対応可能な方法を検討して実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は出張美容室や近隣の理髪店で対応している。洋服選びは本人の意向に沿って確認しながら対応している。また、感染対策の対応として通販を利用したショッピングも楽しんでもらっている。		

グループホームすずらん(あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた野菜の下ごしらえ等をお手伝いしていただき、食事が楽しみになるよう工夫している。また、早食いで誤嚥の危険が高い方については定期的に嚥下評価を実施し、個別で職員が支援できるよう努め、安全に食事を楽しくもらえるように支援している。	栄養士の献立にもとづき食材が届いている。厨房職員が主に調理するが、事業所の畑で収穫した野菜は職員と一緒に皮むきを行い、干し柿や紫蘇ジュースを作り楽しんでいる。嚥下体操を取り入れ食形態も工夫して美味しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ティータイムやおやつ時間に水分を提供するだけでなく雰囲気作りにも気を付けている。取りづらい利用者様に対しては行動に合わせ環境を変えながら体調管理表で確認し一日の水分量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	確認や介助が必要な方は残存機能を活かせるように見守り、仕上げをお手伝いしている。専門医に指導を受け、舌磨き、歯間ブラシ、口腔スポンジも使用している。また、定期的な口腔内の健康診断を行い、必要に応じて嚥下評価も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮した声かけや介助を行っている。適切なトイレ誘導を行えるよう体調管理表でチェックしながら穏やかな精神状態の時に声かけする等の工夫を行い、自立に向けた支援を行っている。	半数の利用者が排泄の支援を必要としている。毎日の体調管理表を職員が情報共有し個別にタイミングを見ながら声かけ、誘導しトイレでの排泄を行えるよう支援している。自然排便できるようオリゴ糖などを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の指導により食事に食物繊維が取れるよう工夫し提供している。便秘の方については乳化オリゴ糖での調整や本人の意向も尊重しながら適切な下剤調整も実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望に沿えるよう対応している。必要な方には浴槽の出入りにリフトを使用し、安心して入浴できるよう心掛けている。	週2回を基本に入浴の声かけをしている。風呂が苦手な利用者に入浴準備を一緒に行い着替えを楽しめるよう声かけしている。またぎ動作が不安な利用者には2名体制で安全に配慮して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況、希望に合わせて休んでいたっている。昼夜逆転しないよう配慮し、昼寝は90分程度の休息を目安にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のためにチェック体制を強化し、服薬時には名前、日付等を読み上げて本人にも確認してもらいながら誤薬防止に努めている。また、薬の変更があった場合には職員間で共有できるよう毎日の申し送りで報告しチェック時に目で確認できるよう薬ボックスに写真や確認できる表を貼り付けている。		

グループホームすずらん(あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒にできる作業を行っていただいたり、家事やゲーム、脳トレも自主的に取り組んでもらえるよう環境を整えて気分転換しやすいよう支援している。					
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り対応できるように感染対策と業務調整を行っている。気軽に行けない場所に関しては、計画を立てて実施している。また、感染対策でご家族の協力をいただく事が難しい場合もあるため、ホーム職員で感染対策に配慮した中で実施している。	車椅子の利用者も事業所の敷地内の畑や花壇へ出かける事ができるよう整地している。野菜や花を育てたり見て楽しんで外気浴ができるようになり気分転換や五感への刺激となっている。紅葉や菊祭り、家族の法要など希望を聞きながら対応している。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は少額の小遣いを所持している。感染対策に配慮した中で職員が買い物に同行することもある。本人の希望の物が買えるようご家族と相談しながら通販の利用も行っている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればホームの電話を利用して頂いている。聞き取り困難な利用者様に関しては職員が対応している。また、精神状態を把握して定期的にご家族等への連絡機会を提供している。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けによる雰囲気作りや行事等の写真を掲示することで、楽しみにしてくれて参加してくれるようになっている。また、飾り作りも利用者様と一緒に作り、季節感を感じてもらえるよう努めている。	共用空間には季節ごとの飾りつけやイベントの写真などを飾り生活や季節感を感じられるよう工夫している。今年の猛暑対策にリビングと食堂のエアコンをフル活用し扇風機などで温度や湿度が快適になるよう対応している。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は席を決めず、どなたでも気軽に話ができるような場所の提供を行っている。気の合った利用者様同士の団らんも増えてきている。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり、思い出の物や家族の写真などを飾り、本人の希望に沿って居場所を作ったり提案している。	入居時に自宅で使用していた馴染みの家具や家族写真を持参して居心地良く過ごせるよう工夫している。身体機能が低下した方には個別に電動ベットを使い起き上がり動作を安全に行えるよう対応している。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターや手すり等を設置し、バリアフリーにしている。個々に合った機能維持のための運動やゲーム、脳トレを提案し目標をもって楽しんで取り組んでもらえるよう機会を提供している。					